

会議録

会議の名称	平成24年度 第1回西東京市健康づくり推進協議会
開催日時	平成24年4月27日 午後1時15分～2時30分
開催場所	西東京市保谷保健福祉総合センター2F 健診室2
出席者	石田会長、内田副石田会長、橋岡委員、永田委員、新倉委員、石井委員、小林委員、池田委員、高梨委員、高西委員、高橋委員、田中委員、大堀委員、平田委員
議題	(1) 第5回議事録について (2) 西東京市健康づくり推進プラン次期計画の策定方法について
会議資料の名称	平成23年度第5回西東京市健康づくり推進協議会議事録（案） 資料1-1 西東京市健康づくり推進プラン策定検討委員会の設置について（案） 資料1-2 24年度健康づくり推進プラン次期計画策定までのスケジュール（案） 資料1-3 西東京市健康づくり推進プラン次期計画の構成について（案） 資料2 西東京市健康づくり推進プラン次期計画にあたっての検討課題
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	

1 開会

石田会長より開催挨拶。

事務局より宮寺市民部長・森下課長挨拶。資料確認。傍聴人報告（0人）。

2 諮問

市長より開会挨拶。諮問

3 議事

(1) 第5回議事録について

第5回議事録について修正、意見等の確認後、承認。

(2) 西東京市健康づくり推進プラン次期計画の策定方法について

事務局より 資料1-1、2、3 説明

会長：

策定方法について質問、意見等あればお願いしたい。

会議体を母子と成人に分けるが、おのおの委員を決め、7人構成の委員会が2つになる。合同会議は14名プラス現協議会委員の大人数での開催となる。（※次回合同会議は6階講座室で行う予定。）

委員：

健康づくり推進プラン（137頁）に推進委員会設置要綱があるが、今回話し合った内容と同じか。それとも本日話し合った内容で要綱を変えるような形で考えていくということか。

事務局：

健康づくり推進プラン検討委員会の設置要綱だが、当時の健康プラン検討委員会とは組織形態が異なってきている。健康づくり推進プランの資料2頁では健康づくり推進プランは上位計画に地域福祉計画がある。最初に健康づくり推進プランを策定する際には、この協議会がまだなかった。地域福祉計画の下部の計画ということがあったため、この地域計画の策定委員会の中で健康づくり推進プランの策定委員会を構成したという経緯があった。ただ現在については、下部の計画であることに変わりはないが、協議会という条例設置の本会議があるので、ここでは主に審議するという形をとり、要綱設置は事務局付きの専門家を集めた検討チームという形で位置づけ、そこで検討した内容をこの協議会で報告してもらい審議することになる。

会長：

スケジュールだが、母子と成人に分かれて開催する会議が4回しかない。各5回ずつの会議でボリュームのある策定計画を立てるのは大変だろう。設置要綱に「策定員会は部会を設けることができる」とある。細かい内容の詰めは部会を作り、ある程度煮詰めて会議を行わないとプランができないのではないかと。部会で内容をかなりこまめに作り、会議に出すことが必要ではないか。前のプランは毎月会議を開催して1年半ぐらいかかったことを考えると、5回でやるのはハードスケジュールだ。部会で煮詰めてからでないとかかなり難しいのではないかと。

事務局：

この計画は10年間ある。最初に作ったプランは10年を見越してそれぞれの項目を考える非常に難しいものだ。それに対して今の社会変化から言うと市町村レベルで10年を見据えた計画は難しいところがある。事務局としては大事な項目、目指すところの筋は決めるが、あとはある程度3年、5年で見直ししながら、重点目標を入れ替えられるようなプランにし、10年経って進捗状況を具体的にみることができたり、今やるべきところがわかりやすいようにしていかないと策定は難しいと思っている。また作り上げてみたら、国から評価指標の指定を細かくしてくることがある。国、東京都が同じような指標のなかで進捗状況管理をしていることもあるので、検討部分を事務局で十分に練り、議論することと、必要に応じては部会で細かく詰められればと考えている。

会長：

確認だが、プランは10年で5年後に見直しを図るものか。

事務局：

現行プランでは5年後に中間評価を行う。

会長：

10年後までのプランを策定する。やはり国と東京都の方針があり、参考にするのはもちろんだが西東京市独自のプランを作らなければならないので、綿密に10年先のものを作らなければ、すぐ見直さなければならなくなる。早急に5回の会議で策定することはかなり難しいと思う。スケジュールはそういうやり方になっているので致し方ない。最終的には策定した段階で2月上旬に市長の答申を行うので、それまでに完全に出来上がっているということだ。最終的なチェックはこの協議会で行うのか。

事務局：

協議会で審議してもらおう。

会長：

協議会の最終会議（来年1月）の段階で決めることになる。スケジュールと方法について、意見等あればお願いしたい。人数についてはどうか。それぞれの会が少人数になる。成人と母子は専門家の声が必要なのでやはり分ける必要があるだろう。

委員：

人数的には必要十分だろう。スケジュールは詰まっている印象だ。

委員：

都と一緒に足並みをそろえるところも多い。指標については国、都の指標との整合性が必要になるが、過去のプランもあるので今後のところを考えるに当たっては、全体的には大枠部分は決まっている。その中で地域性について、どういう形でプランの指標としていくか、活動していくかという部分は議論していくので、回数についてはこの形がいいだろう。ただ事務局の負担が大きいプランかと思うので、下案を出して議論という

形であれば大丈夫だと思う。

会長：

まとめるコンサルはいるが、まとめるのにかなり時間がかかるだろう。

(3) 西東京市健康づくり推進プラン次期計画にあたっての検討課題

事務局（インテージリサーチ）より資料2 説明

会長：

資料2について、今まで検討したものだが、修正、追加等があれば意見を欲しい。

(1) 生活習慣病（がん・循環器疾患・糖尿病）の取り組みについて

委員：

生活習慣病に3つの項目があるが、がん対策は疾病の特徴上、多少対策が違うのではないか。健康づくりの冊子にもあるが、他の生活習慣病とは多少分けて対策なり検討していかないと、他の循環器、糖尿病とは疾患の質が違う。

会長：

対策としてがんは別にしたほうがいいだろう。協議して次期プランに反映させる。一括りにするのはよくないかもしれない。健康日本21、東京都の推進プランにも入ってくるとは思う。目標値も出てくると思うのでそれも検討して作成したい。

(2) 学童期や思春期など、早期の健康課題について

会長：

実際に学童期の教育は教育委員会などとの関係があるので、健康づくりそのものが活用されるかどうかだ。健康づくりの指標としては色々なプランを立てるのはいいと思うが、整合性はどうか。

事務局：

基本的に教育計画があるのでそちらと整合性を図ることになる。ここでは特に家庭内でどういう健康づくりが必要かを検討していければと考えている。

会長：

学童期に関しては教育の計画にあるので、主に家庭での健康教育を検討していく。

委員：

学校教育では小中高とも健康づくりについて学習している。内容としては保健体育と学級活動で具体的な指導をしている。学校と家庭を結びつけて子どもたちに指導をすれば成果が上がるので、学校教育の中身とプランの中身の整合性が取れば、さらに成果が上がるのではと思う。

会長：

プラン作りの参考に学校教育の内容も出していただきたい。

委員：

他のプランとの整合性だが、例えば欠食ややせ、食生活の乱れや学童の生活習慣として早起きの問題などは次世代計画や食育計画にも入っている。また「(3) こころの健康づくり」の「地域で認知症を支える取り組み」は障害者計画や高齢福祉計画に入っている。位置づけとして、他の計画に書いてあるものはそちらで行うのか、それとも併せて入れ込んでいくのか。

会長：

整合性を持たせて、プランに入れ込むということだ。別の食育計画などを参考にして入れ込む、プランはプランとして作るという形になる。

(3) こころの健康づくり、特に働く世代の自殺や悩みを相談できる環境について

会長：

非常に難しい問題で推進プランにどうやって入れ込むかが問題だ。プランに入れられるものがあれば出してもらいたい。健康づくりだけではすまない問題が多いだろう。全体の姿勢の問題も絡んでくる。小児期から高齢者まですべての範囲で大きなテーマになる。専門的な知識がないと難しいと思うが、市はどの程度のことを健康プランに入れようと思っているのか。

事務局：

専門的な知識を深めるというよりも、国全体の動きの中でみんなが意識を持てるような環境づくりや相談体制の整備というもので、国からも健康日本21を通して指標が出てくると思う。それを参考にして検討していく。まずは環境づくりからと考えている。市として始めているのはゲートキーパーという、自殺を防げるように周りが意識を持てるような教育を進めていく取り組みを始めたところだ。

会長：

医師会で精神疾患のうつ病に対する取り組み、推進が始まっている。うつ病患者が多くなりすぎて精神科だけでは間に合わない状況になっており、一般開業医もある程度初期のうつ病を診なければならぬシステムを作り、そこから専門医に繋げ連携していく動きがある。そういうときのプラン作りを、一般市民も認識を持つプランを作るということはあるだろう。その辺を考えてぜひお願いしたい。

委員：

検討した課題は最終的にどこに反映されるのか。冊子には成果目標に入れるのか。ただ検討するとなるのか、48頁のように数値が入るのか。それとも新たな成果目標を作るのか。

事務局：

こころ部分については、国からも指標が出てくるがまだ見えてきていない。

会長：

新しく成果目標と施策目標は作るべきではないか。

委員：

そこへ入れるための検討課題なのか。検討されたことが計画書に入るとのことか。

事務局：

どういう入れ方になるかは未定だ。

(4) 健全な家族の育成について

会長：

一人暮らしなどもからんでくるのか。

事務局：

ここは主には母子関係だ。次世代育成計画の中で大半は触れられており、そこがプランに入り込んでくる。

委員：

具体的にどこに入るのかを示してほしい。成果目標なのか、健康づくりの課題として取り上げるのか、混在していてわからない。入れる場所は母子健康か、成人のところか。

会長：

実際の内容については推進プラン検討委員会である程度決める。

事務局：

事務局としては、合同会議（5月22日）で具体的に検討できるようなイメージを示したい。今日は見えない部分や表現が必要な部分などを意見いただきたい。

(5) 健康づくり推進プランの啓発方法について

会長：

今回のプランでは重要視している。主に施策目標に入るだろうか。

事務局：

今まで議論した中で、冊子にしたときにどう市民に伝わっていくのか、わかりやすく伝わりやすい形が大事という意見をいただいた。そこを重視してプランの見せ方は重点課題として柱を見せる、健康都市宣言とつながっている形で見えるようにしたい。

会長：

アイディアがあればまた出してほしい。

(その他の健康課題)

会長：

今まで検討してきた課題をあげてある。「身体機能の維持・向上について」高齢者の寝たきり予防は、介護予防でやっていたが、あまりうまくできてないので、いいプラン

を作れたらと思って課題になった。「感染症予防に向けた取り組み」は主に小児の感染、インフルエンザ等について今から考えなければならない重要な取り組みだ。「救急医療体制について」「子どもの事故防止（家庭、保育施設、幼稚園、戸外）」「アレルギー対策・健康被害対策」は主に母子保健で議題として取り上げたものだ。「災害時等の緊急時対策（健康危機管理対策）」だが、あまり広げすぎると健康づくりと直接結びつかないかもしれない。

委員：

薬物について学校内で問題になっているので取り上げてほしい。

会長：

薬物については母子保健で検討する。

委員：

「(3) こころの健康づくり」だが、自殺については非常にデリケートな問題なので慎重に検討してほしい。一つ間違えると大きな事故につながる問題だ。専門家（精神科医、心理療法士など）からアドバイスをもらえる取り組みにしてほしい。

会長：

こころの問題については、専門家がいたほうがいい。一般医療とはニュアンスが異なる。決める際にアドバイスだけでもいただければと思う。

事務局：

課題に応じて必要があれば、専門家に参加してもらえるよう要綱設置する。

会長：

課題について他に意見等あれば追加したい。あとは健康日本21と東京都のプランを参考にして骨子を作る。

(4) その他

事務局：

生活習慣病の項目だが、メタボリックシンドロームが抜けているので、次回からは入れる。

次回5月22日（火曜日）午後7時30分より6階講座室2で合同会議を開催する。会議通知は別途案内とする。議事は健康づくり推進プランの作成について、策定方法を説明し骨子案協議をお願いしたい。